



さいとう所長と行く 満月のブナ林散歩の様子
2024年2月24日

B2

ニュースレター

2024/3/31

～5月の観光協会主催事業～
黒松内岳山開き

令和5年度を振り返って

今年度も残すところあとわずかとなりましたが、令和5年度の活動を振り返ってみたいと思います。先日、道は2023年度上期の道内観光客数を前年度同期比で18%増加したと発表しました。新型コロナウイルスの5類移行で人の往来が活発化し、近隣の観光地ニセコでは皆様もご存じのように海外からのスキー客が殺到していることから、‘ニセコバブル’‘ニセコインバウンドバブル’といった言葉が定着しつつあります。

当会もグリーンシーズンを中心に外国人旅行者の受け入れがコロナ禍前と同様の数字になるまでV字回復しました。今年度の体験交流型観光における直接集客に限定しますと国内、海外からの集客数は前年度より149%の増加率となりました。また、外国人旅行者の受入数においては、約3倍の増加となっています。

昨年9月には、「アドベンチャーtravel 2023 ワールドサミット北海道」が開催され、本町も洞爺湖と併せ4泊5日の大会公認ツアーに選定されました。ツアー中は黒松内低地帯での持続可能な観光の取り組みを参加されたメディア、バイヤーの方々へ効果的にPRすることができました。10月にもはしっこ同盟での観光地域づくり事業の一環で、シンガポールの旅行会社より2名を招聘し、同様の取り組みを実施しました。

来年度も国内外からの来訪者数の増加が見込まれます。本町も世界から選ばれる旅先となり得る地域であり、黒松内ならではのプログラムに磨きをかけ、魅力発信や受入環境改善の取り組みを進めて参ります。 事務局長 本間 崇文



フットパスクラブ通信 Vol.17

3月3日(日)に開催したイベント「中央分水嶺を歩く～第6弾～」のレポートです。毎年すぐに定員に達する大人気のイベントです。 ページ2

じり通信 No.31 文：山本竜也

戦前の黒松内市街地を写した貴重な写真を見せてもらった筆者。移ろいゆく黒松内市街地の景色と共に町の歴史を後世へ伝えていきたいと思う。 ページ3

黒松内文学さんぽ ー最終歩ー

黒松内駅は鉄道の発展とともに多くの文人たちに紹介されてきた。開通から120年が経ち廃線が決定した。今後、黒松内駅の作品はどのようになっていくのだろうか。 ページ3

【美一】Beech Girls vol.11

今回は「ああ、熱帯駅」でも大活躍されていた白井川小学校の保健室の先生、中川美波さんを取材しました。 ページ4

<<協会主催・協力イベント>>

黒松内岳山開き 5月下旬ころ

毎年恒例の黒松内岳山開き。今年も5月下旬の週末を予定しています。



黒松内町観光協会総会 5月下旬ころ

例年通り予定しています。ご出席をよろしくおねがいいたします。

フットパスクラブ通信 Vol.17

「中央分水嶺を歩く ～第6弾～」 レポート

3月3日(日)に冬のフットパスイベント「中央分水嶺を歩く ～第6弾～」が行われました。

黒松内町と長万部町の町境にある中央分水嶺は目の前に太平洋を眺める事が出来るという珍しい場所となっており、日本で一番太平洋に近い分水嶺とも言われています。このような地理的な珍しさと冬の間は近隣町のイベント数の少なさも相まって、毎年のように定員に達するイベントとなっています。

今回は一般参加者、黒松内フットパスクラブ会員、スタッフ併せ総勢47名と多くの方々に参加いただきました。イベントの当日は晴れで風も穏やかとなり、雪道を歩くには最適な1日となりました。東栄パーキングエリアを出発し、標高差約100mある分水嶺の尾根を目指し、スノーシューを履いて歩きました。

分水嶺に到達して最初に見えるのは静狩の海岸線です。通常、山から見る海岸線は水平に広がって見えるものですが、この山頂地点から望む静狩海岸は、八雲側に垂直に伸びて見えるのです。ガイドを勤めていただいた辻野健治氏も「道内的にも珍しい景色」と言わしめる景色でした。その景色に参加者は感嘆し、写真撮影に夢中になっていました。

また、急坂の地点で尻滑りを楽しみながら沢地を下る等、変化に富んだ雪道と冬景色を思う存分楽しめたイベントになりました。(事務局・岡本)



快晴に恵まれ晴れやかに歩く参加者



垂直に伸びている静狩海岸を背景に記念撮影

じり通信 No.31 「戦前の黒松内市街地全景」

文：山本竜也

昨秋、町内在住の矢野行信さんから連絡をいただいた。1936年に発行された長万部機関区の記念写真帖に戦前の黒松内市街地全景が載っている。貴重なものではないかという。私は、2016年に『南後志に生きる』を書いたときに、函館市中央図書館所蔵のこの本を参考にしたが、道内の図書館の横断検索をしても函館にしか確認できない。「日本の古本屋」でも見当たらない。矢野さんは、元国鉄職員の父上から受け継いだとおっしゃるが、おそらく、世に数冊しか残っていないうちの1冊だろう。

その本を見てみる。問題の写真は、黒松内駅と周辺の市街地を東山方面から撮影している。1935年の国勢調査では、町村合併前にもかかわらず、現在より多い3523人が黒松内村に住んでいたが、家は今より少ないように見える。現在、役場が建つあたりには畑が広がっている。道道9号線も存在しない。「こんな写真はほかで見たことがない」という矢野さんの指摘に私も頷く。

じつは、矢野さんも、毎年5月5日に東山に登り、黒松内の市街地を撮影している。1962年に始めたので、もう60年以上になる。黒松内駅に飾られている巨大なパノラマ写真を見た人も多いただろう。町の歴史を記録するために、今回の写真も矢野さんの写真も後世に伝えていきたい。



黒松内市街全景

黒松内文学さんぽ ー最終歩・黒松内駅までー

文：北村 英芳

120年前の明治37年10月15日、函館一高島（現・小樽）間を北海道鉄道株式会社の鉄道が全通し、函館・黒松内・小樽などの主要停車場で全通祝賀会が盛大に行われました。右下の写真は黒松内駅の祝賀の様子です（北海道大学附属図書館蔵）。全通直後、著名な文人たちは船旅ではなく、函樽鉄道列車を利用し北海道旅行をしています。とりわけ、函館と小樽の間にある黒松内駅は、文人たちの格好の題材として作品に取り上げられました。以下に主な作品を紹介します。

まず、長田幹彦（ながた みきひこ）の「霧（1914年 九十九書房）」です。大学在学中に北海道を放浪したときの体験をもとに、東京朝日新聞社の小説欄に発表した作品で、黒松内駅及び駅前旅館のことが書かれています。次に、徳富蘆花（とくとみ ろか）の「熊の足跡（『蘆花全集第9巻』1930年 新潮社）」です。明治43年9月から10月にかけて、北海道を旅行した折の紀行文で、9月16日の一節には、黒松内駅で駅売りのそばを食べその味をほめています。この駅売りそばとは、駅前食堂の旧橋本屋さんのそばのようです。

黒松内は、鉄道の開通によって生まれた街です。そして、黒松内駅は多くの文士によって物語が創られ、全国で紹介されて来ました。全通から120年経った今、函館本線山線（長万部～小樽）は廃線が決まり、数年後には黒松内駅も廃止となる運命です。これから描かれる駅廃止後の「黒松内」という作品は、どんな物語に生まれ変わるのだろうか・・・（了）



黒松内駅（明治37年10月撮影）

退職のご挨拶

澤田 奈那恵

この度、2024年4月をもちまして退職することとなりましたので、この紙面をお借りしてご挨拶をさせていただきます。

観光協会では2018年の1月から仕事をさせていただくようになり、令和5年度末で6年が経ちました。その間、順調にインバウンドのお客様が増えていたり、コロナ禍に見舞われてゼロになってしまったり、そしてまたアドベンチャートラベルなど新たな機運が高まったり、インバウンドのお客様が戻ってきたり、本当に色々な出来事があった6年間でした。また、このニュースレターをはじめ、各種観光パンフレットなど、様々な印刷物作成にも携わらせていただき、実践の中で非常に勉強になった6年間でもありました。

2015年の4月に地域おこし協力隊として黒松内にやってきてから丸9年、この春から黒松内生活も10年目になります。9年住んでもまだ町内で行ったことのない場所ってあるものだなあ、と思ったりする今日この頃です。今後も変わらず**黒松内町**で生活を送りますので、町内外でみかけましたら気軽にお声がけいただければと思います。

優しく、温かな黒松内の皆様のこれまでのサポートに心より感謝いたします。そして、これからもどうぞよろしくお願いたします。個人としても微力ではありますが機会があれば黒松内の魅力は発信していく所存です。本当に6年間ありがとうございました。



在住9年目にしてはじめて
オンコの巨木を見にいけました

【美一】 Beech Girls vol.11

白井川小学校の養護教諭、中川美波先生取材しました！

Q 子供の頃はどんな子供でしたか？

A 運動が好きで公園で走り回ったりしていました。

休みの日は父とバドミントン、兄とバスケットボールとか、とにかく体を動かして遊んでいました。

走るのは今でも好きで、子どもたちと楽しく鬼ごっこをしています。

Q 黒松内のおすすめスポットはどこですか？

A すずやさん。

月ごとのお菓子を購入して実家で家族みんなで食べてます。

今年やっと今まで買えていなかったいちご求肥を手に入れることができました！

Q 旅行で行ってみたいところは？

A 場所は決まっていなのですが、一人旅に行ってみたいです。

自然がいっぱいの温泉旅館とかがいいですね。

サウナが好きなので素敵なサウナでゆっくり過ごしたいです。

Q 出身地（札幌市）のおすすめの場所を教えてください。

A 先日そのお店のアフタヌーンティーに行ってきたのですが、円山にあるモンシェールという洋菓子のお店がおすすめです。焼き菓子が美味しくて人気です。

Q 黒松内に住んでみて感じたことは？

A 年度途中の7月に黒松内に来たのですが皆さんあたたかく受け入れてくれました。「ああ、熱帯駅」でも皆さん笑ったり悲しんだり表情豊かで温かい人達が多くて、居心地のいい町に来れたなーと思っています。

買い物をするところが少ないのは不便。とっさに必要な物を買えなかったりするので、買い忘れのないように必要なものはしっかりメモしてお買い物してます。

2月24日に白井川地区コミュニティセンターで上演された「ああ、熱帯駅」をご覧になった方は「あの先生役の人は誰だろう？」と思った方もいたのではないのでしょうか？先生役はなんと白井川小学校の保健室の先生！白井川の子どもたちは元気で優しい保健室の先生がいてくれるので安心ですね。養護教諭っぽさを出すために人体模型のあきらくんと一緒に写ってくれました。

(事務局・澤田)



今年も作りました！

「鮎燻」3回目の販売

朱太川の天然鮎を焼いて干した商品「鮎燻」を今年も製造しました。ヒレ酒のように炙って、熱燻をかけて香りと香ばしさを味わってください。ご自身で楽しむもよし！お酒好きのあの人に贈るもよし！

今回は平年より少ない約50個限定生産！

この機会にいかがでしょうか！（1個1,500円）



観光協会 HP にて「B2」バックナンバーがご覧になれます。www.bunatatourism.com

印刷版をご希望の方は観光協会までご連絡下さい。

発行人：一社) 黒松内町観光協会 発行日：2024年3月31日 次回発行予定は6月末

TEL：0136-72-3597 FAX:0136-75-7070 MAIL：bunatatourism@gmail.com